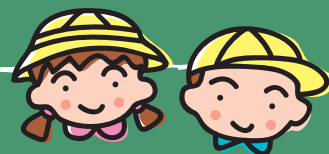


みんなのスペース



やまざき れみ ちゃん
(山田幼稚園・6)

大きくなったら看護師になっ
て、けがをしたひとをたすけて
あげたいな。

東麗子(12)



田村彩子(12)



Boow(?)



田村泉子(?)

海のダイヤ

昨年12月の岩手日報に山田のアワビを「海のダイヤ」と形容した投書が掲載された。アワビにまつわる先生と生徒のユーモアあふれるやりとりに、現場の教育の在り方がダイヤ以上に光り輝いていただろうと思って読みました。

海のダイヤ——。大浦でのアワビ採り名人の十指に数えられた父親が話してくれたことがある。父親はいろんな人と親交が深く、また、母親の分け隔てなく接する人柄に、家にはよく人が集まってきた。ことに天気の良い日は囲炉裏を囲み、ゆっぴい（煙い）中で茶をすすりながら、談笑して一日中楽しんでいるものだった。アワビが大きいたくさんいる場所の話、鉤の掛け方など大人たちの話に、わたしは子供なりに興味を持ちながら「アワビを採るって難しく面倒なものだな」と思って聞いていた。そんな中必ず話題に上がるのが、72貫（270kg）の大漁の話である。父親によると、その日は1日中浜も良かったが、早朝から大掛りや亀、瀧散の丘の方を見てまわって探してもさっぱり見つからなかった。ほかの船も何度も来て見回していたが、そのうち誰もいなくなり残ったのは父親一人。仕方なく沖へ出て礫（丸い岩）を見たら、どの礫にも見たこともない大きなアワビが何百もびっしりと上がっている。しかし、その大群はかなり深いところにいたため、礫に上がっているうちの一番の好物を抜き取りながら、何百もある礫をぐるぐると回って採りに採りまくった。その結果72貫あり、驚異的な水揚げだとみんなに驚かれた。何よりも驚いたのは、アワビ採りに慣れたはずの手のひらに、棹との摩擦により大きな血豆ができていたことだと、その手を見ながら懐かしむように話す父親だった。

アワビ採りで血豆ができるというのはいまだに聞いたことがない。アワビがたくさんいたころの古き良き時代の話である。父親の血豆こそ、豊かな自然が贈った「海のダイヤ」だと思っている。

山崎卓三（大浦・?）



芳賀優香(8)



やまだ文芸広場

待ちわびた春の訪れ 福寿草

見渡せば野の道土手の路の臺

一足早く春の訪れ

内館洋一（飯岡・66）

風も無くしんしんと冷える夜なれば
湖の表凍り行くらん

菊地孝進（船越・87）

その勇氣五年の女孫の立候補
結果はいずこ希望に満ちて

大川ヒメ子（大沢・64）

大寒に白カッパ洗いし我が
運命ときめやカイロ入れてる

大町ティ子（大沢・?）

かき小屋に大勢おでんせ俺が町

佐藤兼男（荒川・82）

「ひなまつり」

ひ…ひらくとあるよ、

探そう幸せの窓
な…流されて生きていく時代の流れ
ま…守ろう交通ルールと

シートベルト着用

つ…伝えていこう、

地球温暖化ストッ
プ…リラックスして、無理しないで、
自分なりに生きよう

佐藤啓子（船越・?）